まべちだより

令和3年11月
vol.112

加賀美流流鏑馬（かがみりゅうやぶさめ）



さわやかな秋晴れの空の下、11月7日（日）に大橋（通称ふれあい橋）長苗代側河川敷の特設会場で、加賀美流流鏑馬が行われました。

流鏑馬とは、武家社会で行われた騎射の一種です。馬術と弓術を組み合わせたもので、疾走する馬上から鏑矢（かぶらや）を放ち的を射抜きます。現在では神事で行われたり、競技としても行われたりしています。

八戸藩発祥である加賀美流流鏑馬は、無病息災や八戸藩の安寧（あんねい）を願って3人の騎士が馬上から的を射抜く馬術です。八戸藩8代藩主南部信正公が1827年(文政10年)に創設した奉納神事として、およそ40年にわたり開催されてきたと云われています。

明治維新と廃藩により消滅していた加賀美流流鏑馬ですが2019年9月、152年ぶりに復活を果たしました。史実にのっとって2年に一度開催し、今回は2回目となりました。



馬に乗って走りながら3枚の板を順に矢で射抜きます。目の前を走り抜ける馬は迫力満点で、割れる板の音なども鮮明に聞こえました。

命中すると、沢山の拍手が起きていました。



当日は流鏑馬のほか、居合道演武や篠笛演奏、騎乗舞に民謡歌手も出演し、伝統芸能を堪能することができました。





八戸市民の花「菊」

11月6日～8日に、八戸ポータルミュージアムはっち及び八戸まちなか広場マチニワで『菊まつり』が開催されました。会場には愛好家が育てた菊の花のほかに、菊人形も展示されており、総展示数は300点にもなりました。また、市民クラブや小中学生が育てた奥州菊などもあり、八戸の伝統を繋いでいます。奥州菊は八戸が発祥とされていて、花びらが巻くように玉の形になっており、外側の花びらは流れるようになっているのが特徴です。

また、11月21日まで八戸市大字本徒士町にある更上閣で『菊花展』が開催され、3名の愛好家が育てたおよそ150点もの菊の花が屋敷を飾っていました。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～ 菊まつりの様子 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～



菊人形『川中島の戦い』



懸崖展



市民手作り奥州菊

ここがすごい！食用菊！

八戸市では昔から、観賞用のほかに食用菊が栽培されてきており、八戸の特産品です。食べ方は様々で、おひたしや三杯酢、味噌汁などに用いられますが、スイーツに使われることもあります。鮮やかな黄色い花びらが料理を華やかにみせてくれます。

菊の旬は10月下旬～11月上旬と短いので、花びらをほぐしてからざるに入れ蒸し、それを乾燥させた「干し菊」にして保存します。干し菊の丸や四角い形はざるの形です。

実は菊にはビタミンC、ビタミンE、ビタミンB2など、美肌やアンチエイジングに効果的な栄養素が沢山含まれています。また、殺菌や解毒効果もありますので、見てよし食べてよしのスーパーエディブルフラワーなのです。ぜひご賞味あれ!!



干し菊

〒039-1103 青森県八戸市長苗代二丁目5番8号
http://www.thr.mlit.go.jp/aomori/syutu/hachikawa/
TEL:0178-28-2626
E-mail:thr-aomori01@mlit.go.jp
発行者:国土交通省 青森河川国道事務所 八戸出張所

事務所SNSはこちら→

青森河川国道事務所Twitter

青森河川国道事務所HP

八戸出張所HP